

還暦・古希・喜寿そして
傘寿談議
文・写真 (株)地域サービス代表取締役
永井 英彰

**国立大聖堂で賀川豊彦追悼
ワシントン、桜祭りに「大書の花」**

ワシントン編

成田経由は不便である。どうしても1泊が余分となる。今回のワシントン・ニューヨーク行きは、前日に海部観光バスで大阪・伊丹空港で1泊し、ANA成田発午前11時発でワシントン入りした。

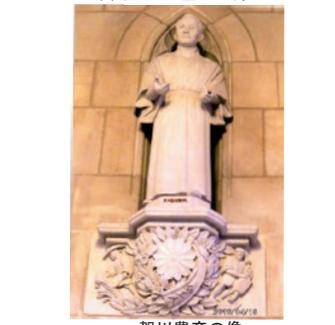
当初、ひとりで行くべく格安航空券を手配したが、ふたりの同行者を得、米国在住の男女も参加した。4月14日ロナルド・レーガン国際



ワシントン・NY・ポストンの地図



米国立大聖堂の内部



賀川豊彦の像



新島譲の像



大聖堂でダニエルさん(中央)が出迎え



大聖堂の屋上

空港に到着したらレンタカーを借りて迎えてくれた。

なぜ賀川豊彦の像？

今回の旅はワシントンプロジェクト実行委員会の野口順委員長(元鴨島町長)ご夫妻と主役の書家・吉野美苑さん、太鼓の楽校理事長(いづれも鴨島町)の4人が、既に現地入りしていた。アメリカ国立大聖堂で責任者のダニエルさんの出迎えを受け、大聖堂を案内してもらった。リンカーンを始め、数々の偉人賢人に交じり賀川豊彦の像に出会った。賀川豊彦はガンジー、シユバイターと並び世界の

大聖堂の屋上に登る

像が設置されたもうひとりの日本人は新島譲である。彼はキリスト教系の同志社大学前身の女学校を設立した功績による。

ホワイトハウス見学

アメリカ在住の加藤さん、エミさんの運転で、同行の若松善英さん(鳴門賀川豊彦記念館友愛会)と時差ボケの筆者は、ホワイトハウスを前からと裏から見学した。正面側の公園に1軒の売店がある。全て撤去の法令が施行されたが、それ以前からあったので特例として残っているという。アーリントン墓地やスミソニアン天文台など見どころはたくさんあるが時

間が足りない。この夜、徳島市南新町の寿司店「石松の島村常弘さんが若き日の修行したワシントンの寿司店「寿司太郎」を徳島で予約してもらってあり、9人で出掛けた。この店はホワイトハウスにも招かれた有名店で、コースを注文したら、食べきれず残ってしまった。1人当たり2万円を超した。やはり鮮度に問題があり、石松なら7千円で済み、こちらが美味いと感じた。

賀川豊彦像前で「書」

翌15日、午前5時起床で大聖堂に向かう途中、日本大使館前のトルコ大使館員と柵越しに話をしていたら、上級職員が出てきた。なぜ、日本から来たか話をしたら、ワシントンポストへメールで申込

までしてくれた。遅れそうになりながら大聖堂行き。賀川豊彦像の前で、吉野美苑さんが彼の精神である平和・友愛・相互扶助を発信するため「愛」を大書した。続いて聖堂前の広場では中西さんの神楽舞に合わせ「夢・創・絆・愛・友愛」を書き、ダニエルさんには「絆」を贈った。

大聖堂は丘の上にある。ここからダウンタウンまでの間に日本など30カ国もの大使館がある。ホテルまで歩いて帰ったら2万歩を超していた。

舛添都知事も登場

16日、朝5時起きをして迎えを待ったが、エミさんの車が追突されたとかで時間が経ち、桜祭り会場へ直行した。途中、ワシントンポスト紙を買って調べたが、書道の記事は掲載されていなかった。昨年までは、大統領候補トランプのホテルが会場だったが、



寿司店「SUSHI TARO」



寿司の一品・ハケがついている



2代目経営者(左)と店内で



神楽舞に合わせて吉野美苑さんが大書



挨拶する佐々江大使・中央が舛添知事



ブースで書道教室(中央が野口たえ子さん)

今年には近くの広場が会場となった。今回のパフォーマンスにそなえて、筆者は書道用紙千枚を持参した。この用紙で練習した後、山川町・和紙会館の和紙に清書し、吉野美苑さんが押印し、書いた人にプレゼントする。筆者もお手伝いをし、若い女性十人以上の手を上から押さえて教え、逆にエネルギーをもらった。

本会場の割り当て時間の直前、ワシントンと姉妹都市の関係にある東京都の舛添要一知事が、佐々江駐米大使と登場した。都知事は高額の海外旅行費用や別荘使用問題などで渦中の人であり、注目を集めていた。

野口たえ子さん奮戦

同行の若松善英さんが以前会ったことのある佐々江大使に「ミッシェル大統領夫人へ藍染と野菜の種を贈りたい」と申し出たが、後刻、大使館

員から断りの連絡があった。本番では中西さんの神楽舞に合わせ、吉野さんが次々にキャンバスへ大書、千人近い観客から拍手を浴びていた。更に割り当てブースで書道教室を続けたが、人員制限をしないと終わらない程の盛況だった。

現地大使館や国立大聖堂との交渉、出展ブースでの呼び込みなどに大活躍したのは野口順優子夫妻の2女で米国在住の野口たえ子さんだった。

鴨島で帰国報告会

5月1日、吉野川市鴨島町のセントラルホテルに併設されている賀川記念館のチャペル「カナ」で、65人が集まって帰国報告会が開かれた。ワシントン滞在中の楽しかったこと、苦しかったことなど各人が報告した。現地では吉野さんが書いた書は吉野川

市や鳴門市へそれぞれ贈呈された。これで「ワシントン・プロジェクト in tokushima」は解散となった。来年度については改めて検討する。

剣山山開きに参加

4月29日は剣山・大剣神社の山開き。四国大学の上野昇講師の車に便乗して剣山へ向かった。途中、轟の滝で上野講師が禪ひとつで水垢離。筆者は手を洗うだけで身を清めた。今年は晴天だったので、神輿がリフトまで繰り出した。

直会に参加させてもらって皆さんと雑談しながらお神酒を頂いた。リフトで標高1750まで上り、さらに50分登った所で体調を考えて休憩、打ち止めとした。同行の松重四国大学学長は頂上まで登られた。たまたまこの日は気温が低く、薄着の学長は大変だった。

たと思う。筆者は過去の経験から1枚ジャンパーを余分に持っていたので、風邪をひかずに済んだ。

あわストリー出版

徳島市の内科医師・香川宜子さんが「日本からあわストリーが始まります」という長い題名の本を出版、4月24日に徳島駅前の阿波観光ホテルで出版パーティが開かれた。剣山にはユダヤ人も注目し、国歌・君が代もユダヤ語では隠れた凄じ意味が含まれているという。筆者はユダヤとの関係は良く分からないが、阿波の古代史については、バランスよく記述がなされていると思った。

藍住恒例のバラ祭り

5月1日から藍住町恒例のバラ祭りが開かれた。大久保明管理人によると、例年なら黄色のバラから咲くのに、今年は赤色から咲いた。こんなことはここ10年来初めての事で、原因は春先の急激な気温の上昇だという。バラの咲き具合も今年は稀にみる上出来だった。
(ニューヨーク・ポストン旅行については7月号で報告します)